

2025年も7月が終わりました。これはドリアンの季節の終わりも意味します。私がペナンに着任した昨年11月から勤務を開始した12月までは通常では無い第二のドリアンの旬がありました。今年もあることを願うところです。

7月は、日本について言えば、参議院議員選挙と日米交渉の「決着」が大きなニュースでした。また、米国とマレーシアとの間でも、関税交渉が決着しました。これらについて詳細なコメントは致しませんが、日本の今後を占う大きな出来事であったと思います。東南アジアにおいては、タイ・カンボジア間の武力紛争が大きな話題となりました。板子三寸下地獄と言いますが、平和共存の東南アジアの中にも、長年の歴史の中での対立が時には顔を覗かせます。

今後とも、我々日本人は、世界の情勢を曇りなき眼で見据え、我々に影響のある事象に耳をそばだて、主張すべきは主張して日本の利益を確保しなくてはならないと思います。総領事館もペナンにおいて、微力ながら日本のためにしっかりと働いていきたいと思っています。

以下、7月の総領事（館）の主な活動報告をいたします。

私のペナン外への出張等については、7月はありませんでした。昨年12月以降8ヶ月の勤務の中で、ペナン州の各所を訪問しつつ、ペラ州（イポー7回、タイプン2回）、ケダ州（2回）、ペルリス州（2回）、クランタン州（2回）を訪問し、ケダ州を除き首席大臣・首席大臣代理等に表敬し、現地の日本人の皆様とお話しし、日本企業等を訪問し、また、現地の大学等を訪問しました。その見聞を踏まえ、今月は、地域連結化や北部回廊経済地域（N C E R）の連携を一つのテーマとして面談などに臨みました。

政治・行政・経済面では、

7月4日、マリオット・ホテルにおいて、三水会・JACTIMペナン部会の共同例会に出席しました。KL・シンガポールからの参加者の皆様等のご講演を伺い、また、広く懇親することができ大変勉強になりました。今後は、このような会合で有益な講演をしてくださる講師の紹介などでも貢献したいと考えております。8日、ペラ開発公社関係者と懇談・意見交換をしました。この方は、日本留学経験者でもあり、以前、ペナン州政府や北部回廊事業公社（N C I A）でも勤務していましたが、今回は、大阪・関西万博でのペラ州プロモーションの話などについてお話を伺いました。9日、タンスリ小西様を往訪し、これまでの活動を報告し、ペナン事情等について意見交換しました。タンスリには私が当地着

任直後にご挨拶に伺い、その後も、折に触れてお話を伺ってまいりました。

11日、JETRO高野様も交え、ペナン政府関係者と共に、ペナン州関係者による9月下旬の日本（大阪）訪問について意見交換しました。チョウ首席大臣が「ペナン・ウィーク」をオフィシャル・ローンチするのに合わせ、多くの閣僚（EXCO）が訪日して様々なテーマで企業への訪問等を行ないますが、今回は、スマート・シティ等ペナンの行政に資する活動についての訪問についての意見交換でした。今後ともできる限り側面支援したいと思います。また、同日、JNTO様と観光振興関係について意見交換しました。ペナン等から日本への訪問は堅調ですが、日本からの訪問も活性化したいものです。14日、「ペルリス・インランド・ポート」（PIP）建設と運営を担当するムティアラ・ペルリス社CEOと懇談し、マレーシア北部とタイとの間の連結性等について意見交換しました。先月、実際にPIPを訪問したことの続きです。日本企業も関与しつつあるこのプロジェクトについては今後とも勉強していきたいと思います。同日、スブラン・プライ市のバデルル・アミン市長と懇談し、同市の行政の状況等について聴取すると共に意見交換しました。スブラン・プライ市は実はマレーシアで最大の市であり、市内には数万の外国企業の拠点があります。以前、ペナン市に所在するゴミ処理中間施設を視察した時にうかがいましたが、スブラン・プライ市で毎日排出されるゴミの量は約2000トンであり、ペナン市のゴミと合わせ、25年で最終処分場が満杯になることへの対処が一番の課題であるとのことです。今後とも同市長とは連携できればと思います。15日、プシュシット在ペナン・タイ総領事の表敬を受けました。伝統的な友好国であるタイとの間では、今後とも、当地事情について意見交換すると共に、様々な局面で協力していきたいと思います。16日、スブラン・プライ市で操業する日本企業にお邪魔し、操業の様子を拝見すると共に、経営の状況について伺いました。17日、NCIA本部を訪問し、ムハammad・ファズルラ・プロジェクト部長等と懇談し、北部回廊開発について意見交換しました。NCIAは、マレーシア全体の均衡ある経済発展を目指すために、北部回廊経済地域（NCER。ペナン、ペラ、ケダ、ペルリス4州）の経済発展のための連邦政府の耳目となる機関です。今後、当地に進出する日本企業がアクセスするのに有益な機関かもしれません。同日、「インベスト・ペナン」を訪問してルー局長及び半導体事業関係者から、ペナン州の半導体設計技術者の育成方針等について聴取しました。また、同日、半導体関連企業関係者と懇談しました。ペナン州は、「東洋のシリコン・バレー」を目指して、後工程のギャップを埋めること・前工程に進出することを目指しており、その一環としてICデザイン技術者の育成に力を入れています。高所得国への到達するため、ペナン／マレーシアとしては今後とも腰を据えて、知識集約型で付加価値の高い財とサービスを提供する企業を多数育成していくということだと思わ

れます。18日、ペナン観光局（Penang Global Tourism）の伝統的建築の本部を訪問して、ウイ局長等と懇談し、大阪・関西万博時の関係者の訪問を含め、ペナンの観光振興方針について聴取しました。当方からは、先月の首席大臣・在ペナン領事団の意見交換会合での議論を紹介しつつ、ペナン単体でなく北部4州が連携した観光開発の可能性について問い、活発な意見交換をいたしました。

22日、ペナン州議会が設置した州と連邦との間の関係を再検討する特別委員会の委員長であるグイ州議会議員（元連邦議員）が来訪され、この委員会の問題意識などについてお話を伺いました。中央集権国家であるマレーシアでは、州政府には独自の財源・権限が少なく、インフラ整備等を実施するに当たっては連邦政府に支援を要請することが必要です。この委員会の議論によって既存の体制にどのような変化があるかは不透明ですが、今後とも委員会の議論の帰趨に注目していきたいと思っております。23日、ペナン市内で開催された「EMAX2025」開会式に来賓として出席しました。43の国・地域からE&E関係企業が出品したこの産業展示会は、マレーシアの重要な産業拠点であるペナンの存在感を示したものと言えます。25日、ペナン開発公社（PDC）を訪問し、同公社のアジズ総裁と懇談し、来たる9月のチョウ首席大臣の訪日等について意見交換しました。26日、ペナン州長の公式誕生日に開催された勲章伝達式に出席しました。ナタリブ州長は1,500件に上る州の勲章を数回にわたって親授するということです。29日は、MUFG様が主催した半導体産業関連セミナーに出席しました。30日には、PDC関係者及び東方政策留学生会（ALEPS）関係者との間でオンライン会議を実施し、9月下旬のペナン・ウィークに向けての連携について意見交換しました。今後、ペナン州政府関係者及び大阪における代理人と大阪の企業等とのアクセス改善等について側面支援していきます。31日には、PKTロジスティック社を訪問し、マイケル・ティオ会長兼社長に表敬しました。同社はマレーシア国内外で手広く輸送業務を行ない、日本企業とも大変緊密な関係を有しています。バト・カワンの輸送基地「The 12 Waves」の脇には、日本人庭園作家の手になる「マレーシアー長い」日本庭園「恵泉庭」も設置されています。懇談の中では、当地の投資環境等についての貴重なお話を伺いました。親日家であるティオ会長兼社長のような方とは今後も親交を深めたいと思っております。

今後とも、当地行政機関等と関係を深めてその課題を把握し、それを当地の日本人・日本企業の皆様の役に立てることができればと思っております。



(7月4日三水会・JACTIMペナン部会) (7月16日スラン・プライ市長表敬)

日本人社会との関係では、

7月4日から13日まで、総領事館事務所において、参議院選挙に伴う在外選挙を実施しました。全般的には無事終了しましたが、在外選挙制度の誤解を招きやすい部分等に今後とも在留邦人の皆様に丁寧にご説明すると共に、今後、在留邦人の皆様の国政への参加をより良く実現するため、ご要望に応じて「出張領事サービス」のように企業や団体等の組織が取りまとめる形での在外選挙人証申請事務を行なうことも検討したいと思っております。13日、現在の学校では最後となる「ペナン日本人学校運動会」に来賓として出席しました。引越し業務に忙殺されつつも素晴らしい大接戦の運動会を運営された先生方、素晴らしいスマイルを見せて躍動した児童・生徒の皆様方から大きな感動を頂きました。19日、これは、日本文化紹介のカテゴリーでもありますが、ペナン日本人会も運営委員会の一部であるペナン盆踊り大会に参加しました。参加者公称1万人と言われる今回の盆踊りは、日本文化がペナン社会の不可分な一部になっていることを意味しています。来年は今年以上の盛況になるよう、総領事館としても努力してまいります。

24日、ペナン日本人学校現校舎のお別れ式に参加しました。日本の将来を担うお子様達の教育のために力を注いでいた先達の思い、新校舎への移転に大変な労力を割かれた現運営委員会の皆様・先生方のご苦勞を念頭に置きつつ、新校舎でのお子様達の健やかな成長をお祈りする心でご挨拶いたしました。29日には、ペナン日本人会の定例理事会に出席しました。私からは、上記の在外選挙についての取り組みについてお話ししました。

領事事務を始めとした日本人社会へのサービスは総領事館業務の「一丁目一番地」です。今後とも精一杯励んでまいりますので、引き続きご指導、ご鞭撻をお願いいたします。



(7月13日 ペナン日本人学校運動会)



(7月19日 ペナン盆踊り)

文化交流・報道・学術交流関係では、

7月1日、JAGAM及びALEPS関係者と懇談しました。両団体は、日本とマレーシア／ペナンをより良く繋ぐために頼りにしている団体であり、今後とも連携を強めてまいります。2日、孫文記念館を訪問しました。10日、コムターにおける盆踊り大会の記者会見に、ウォン観光・創造経済担当大臣（EXCO）など実行委員会の面々と共に出席しました。同日、マレーシア科学大学（USM）のアブドル・ラーマン副学長と懇談・意見交換しました。USMについては、当地日本企業も期待する「日本リベラル・スタディーズ」の承認が最終段階となっており、当館としてもその承認に向けて関係者を支援していく所存です。

16日、会津大学の金子恵美子教授（語学研究センター）及びUSMのシティ・ラヒヤ国際センター副所長が来訪されましたので、両大学の協力関係についてお話を伺いました。会津大学は1993年創立、コンピュータ理工学部のみ単科公立大学ですが、その国際性の高さなどを評価されて一部国際大学評価では日本で11位となっています。語学研修として始まる公式な交流が今後大きく発展することを祈念しております。

24日、豊橋技術科学大学（TUT）のリム教授等が来訪され、8月6日に開催される信州大学・USMのMOU締結、TUT学生の皆さんのプログラムについて意見交換しました。26日は「Toyohashi Global Challenge 2025」でペナンを訪問した豊橋市の中高生とホストファミリーの昼食会に出席してご挨拶させていただきました。これは、豊橋市国際交流協会による新たな取り組みです。豊橋市から優秀な中高生16名が参加しました。現地校生徒やホストファミリーとの交流から多くを学んでいただければと思います。



(7月26日：豊橋市中高生などと共に) (7月10日：盆踊り記者会見)

総領事館としては今後とも、日本文化紹介及び日本・マレーシア交流促進のために心を尽くす所存です。今後とも、マレーシアで日本を盛り上げていきましょう！

8月以降も、日本とマレーシア（北部6州）との間をより良く繋ぐことによって、日本人の皆様が安心・安全に、誇りを持って、意義深い生活・活動をされるよう、微力ながらも全力を尽くす所存です。今後とも、ご指導・ご鞭撻をお願いいたします。